

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム野楽里(東の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	令和2年10月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail;_2020_022_kanji=true&ijyosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者とともに食事作りや洗濯干しなど一緒に行い、日常生活の中で役割を持って生活をしていたりしている。
一人一人の生活スタイルを大事にしている。また、様々な場面で自信をもって取り組み、いろいろな方との交流で笑顔が多い生活を送れるよう、言葉かけ等に配慮しながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大須賀地区に唯一の福祉法人として住民の信頼も厚く、グループホームの利用者の大半が併設の小規模多機能事業所か法人内のデイサービスに通っていた人の為、家族の身内意識も高く、地域と法人双方に支えられている事業所です。コロナ禍で外出もままならないことから、本年は「レク活動を頑張りましょう」を合言葉に、生姜湯で滋味あるお風呂を堪能したり、子どもの頃おやつ定番だった深し芋で楽しい時間を過ごすことができています。また、本年度から「事業所単位での取組みを～」が法人から奨励され、通信発行や委員会活動が独自におこなわれるようになることで事業所の責任感ややりがいが増えることが期待されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロッカーに貼り、常時目に入るようにしている。法人として、年度末に次年度へ向けて、理念や倫理綱領を渡している。	「その人がその人らしく、～」との理念に基づき、「これならできるんじゃないか」と、利用者や時には家族にも提案しています。危うくても、立ち上がろうとして手伝おうとしてくださいことは受容して様子を見守ることが日常となっている利用者もいます。	目標設定と個人面談の仕組みはありますが面談が不定期となっていたり、理念と連動できていないため、適切な運用となることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	・所在地の年間計画をもらっている。 ・地区の方が敷地の草刈り・草取りに来てくださった。 ・コロナの為、交流ホールも活用できなかった。	ハーモニカの演奏と歌のボランティア、スマイルステップ、筋ちゃん体操など定期的に地域住民が来所して賑わいがありましたが、現在は「(仮に感染していたら)うつしちゃいけない」と気にかけてくださるためか、外部者が尋ねてくることはありません。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みで、福祉に関する相談窓口を開設しているが相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催し現状報告をしている。今年はコロナの対策で施設としての取り組みも報告している。	法人の長い歴史からメンバーは多様で、元民生委員で時折ボランティアでの来所もある「地域住民」も協力者としてメンバーになってくださり、心強い限りです。コロナ禍で5月は職員のみで集まっておこないましたが、7月、9月は通常開催しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。	「スマイルステップ」「筋ちゃん体操」と予防の体操事業の受託、こども園の開設等、法人は市との協力体制が堅固で、事業所としては積極的に関わる機会はずいぶん多く、運営推進会議で運営内容を知ってもらうことに努めています。	市とのタテの報連相は法人本部に委ねるとしても、今後は地域事業所とのヨコの連携を増やすことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月1回、委員会を開催、現状を話し合い確認している。スピーチロックを一人一人が気をつけたいという振り返りもできている。意識の向上が図られている。移動職員等にはその都度説明を行っている。	身体拘束廃止委員会は3ヶ月毎に全員参加での開催を旨とし、不適切ケアも含めた係る知識を理解しています。「転倒が心配」→「じゃあ柵をつけたら?」「それは、やっぱり拘束でしょう」といった現場に即した具体的な事例検討で話し合いが充実しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は研修を実施していない。 ・疑問に思うことは、その都度、報告あり確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用して居る入居者はいない。今後、成年後見人が必要な方も出る可能性も考えられる。研修の必要性を感じている。県の社協より、成年後見人制度についてのDVDが届いているので活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者とケアマネで、身元引受人に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として、1年に1回満足度調査をして意見を反映している。(今年度まだ実施していない) また法人のホームページに苦情やご意見を掲載している。	四半期毎の便りと定期受診での情報交換が家族とのパイプです。また、30畳はゆうにある地域交流ホールを有効活用して面会の場としており、予約制で15分との時間制限やマスク、消毒などルールを定めて「家族と会える」ように配しています。	家族への便り(報告)は四半期では少ないかと思います。特に現在は面会が薄くなっていることもあり、毎月症状の変化や本人の暮らしぶりが届けられることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3月に面談実施。今年度中に奈1回以上はやる予定である。意見を言える・言えない・言わない人と個人差はあるので拾い上げも必要と思っている。面談体制の整えが必要。	担当者の体調不良や他業務と重なった等の理由を以て、ユニット会議はこれまでは状況によって流れることもあり定期開催できていません。また管理者が現場にいるため大きな支障はないものの、個人面談も定期的な軌道に乗せることが課題です。	「会議の進行者が不在」には正副の担当を決めるなど、是正策を手堅く用意する(=予定通りでないことが続く職場の規律の乱れにつながる可能性がある)ことを期待します
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厚生休暇で連続した休暇が取れたり誕生日休暇がありモチベーションに繋がっている。就業時間の定時終了を促進している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の勉強会・感染症や事故の研修を実施して皆が参加できるように、何回かにに分けて開催している。福祉士などの資格取得を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	掛川市事業所連絡会に出席し、地域密着型サービスの部会に参加している。今年度はコロナの為、現時点では部会開催がない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でケアマネや管理者が、家族やご本人からの情報収集して伝達している。センター方式の「暮らしぶりシート」を活用し関係作りに努め、記録に残し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族(介護者)の気持ちに寄り添い、ねぎらいの言葉を掛けたりしている。職員一人一人が心掛けていると感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、現状を聞き取り状況に応じ、他のサービスの利用を勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識している。生活する中で「一緒に」行う中で伝えるだけではなく、教わる姿勢も持っている。職員本位にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は基本家族にお願いし、会う機会を設けている。又、3か月1回担当よりお手紙を書いて送っている。コロナで面会制限もあ為、10月より法人として事業所ごとに毎月、野楽里通信を出すようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で必要な方だけの面会で、馴染みの人に会う機会はなかった。外出の機会もない。	なじみの関係継続への意識は高く、かかりつけ医を継続する人も多く、また在宅の頃からの習慣で乳酸菌飲料を毎日飲んだり、般若心経の写経を独り静かにおこなったり、できる利用者に触発されて編み物をやり始めた人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮を状況を見て変更している。また、誕生会など余暇活動で交流機会も作っている。利人居者同士の会話も多くある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりは、特別持っていないが、地域の中で家族に会った時、様子を聞くことが出来たケースもある。自宅に戻るケース2ケースあり、ケアマネや今後の施設の紹介をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意思を尊重した生活の場を提供している。ずっと居室にこもらないよう適宜、声掛けも意識している。	入居時には「暮らしぶりシート」への記載を家族にお願いし、出来ることと出来なくなったことの記録も残しています。「帰りたい…」を繰り返し言い続ける利用者の想いに沿って「(できる要素はある前提で)まずはやってみたら～」と、自宅に戻る方向で家族と協議した例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「暮らしぶりシート」を活用し生活歴や現状を把握するよう努めている。中途採用や移動した職員の中には、さかのぼって共有しようとする意識を持っている職員もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や「暮らしぶりシート」の見直し、申し送りで情報共有し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回モニタリングを行っている。更新時期や状態変化ある時、担当者会議を行っていて、最善のケアができるようアセスメントしている。担当職員にやってもらい、サービス計画者がまとめている。	4名の計画作成担当者があり、人材は潤沢です。2表のサービス内容には「食器の位置を変更」「主菜の上に副菜をのせる」等具体的な記載があり、体調不良での検討とともに定期更新時には家族にもサービス担当者会議の出席をお願いしています。	担当者欄には介護職員以外の人も入るよう配慮、または工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有できている。新規利用の方は特に詳しく記録する努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅希望の入居者がいたので話し合いを何度かもち、在宅に行っても困らないようにケアマネを紹介をした。10月家族の希望で往診取入れをした		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傍にある「中新井池」の散歩、地域の床屋の活用。コロナの為、ドライブなど自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人のかかりつけ医を継続し利用している。状況変化ある時は同行したり、書面で報告している。看取りになった時の往診についても、全員ではないが、了解を取れた医師もある。	在宅の頃からの医師を全員が継続しており、現在9つの医院が当事業所の利用者に関わってくださっています。幾つかには「看取り対応してもらえるか」を確認しており、不明な点は電話で問い合わせも出来ています。医療情報は「様子観察」「連絡ノート」に残して共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師なので、適宜状態報告し指示をもらうことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提要やサマリーを活用し共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になりうるであろうと予測する時は、早期に担当者会議を開き、家族の要望・施設でできる事を伝え今後の流れを決めている。今年1月～2月に施設として初めて看取り介護を実施させて頂いた。今後も研修を開催し向上していきたい。	「食事を摂るのは難しい」と医師からはあったものの、誕生日祝いの用意をして家族を招いていたその日に旅立たれて、ある意味感動に包まれたお見送りが本年初めての看取りとなりました。嫌がる職員はなく、家族にも感謝されてやりがいをもって取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自らマニュアルに目を通して学ぼうとする職員もいる。しかし、不安を感じる職員もあるので、実技講習を実施する必要性はあると思っている。最低年1回は勉強する機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・法人の災害マニュアルはある。 ・備蓄の整備が遅れている。 ・避難訓練に全員が参加できていないので、参加できていない職員も参加できる体制作りが必要である。	法定訓練の2回のみでは全員の職員が参加できにくいとして年4回とし、すでに3回を終えています。これまでは各事業所1名の防災委員が法人本部に集まる形でしたが、本年度からは併設事業所と併せて4名の防災委員が配されており、今後の更なる充実が期待されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や誇りを考慮し声掛けの仕方に配慮している。申し送り時、入居者に聞こえないように配慮している。慣れあいになることもあるが、丁寧な言葉遣いの職員につられることもあり、気づきになっている。	理念と重なる点であることから、職員は自然に丁寧な対応ができています。管理者は自負しています。「ズボンをどう風におろしたらいいか」「前はおろさず後ろだけにしたほうがいい」というように、職員は羞恥心についても具体的な方法を共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように2者選択を行ったり、言葉で表現できるように、声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた人数での支援ではあるが、一人ひとりの職員が、なるべく希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの配慮が出来ていて、洋服の汚れがあったら着替えている。また、言葉がけて意識を持ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事・出来ない事を見極め、職員間で共有を図り実践している。自分の仕事として進んでやる入居者もいるので、その想いを大事にしている。	業者が搬入する材料や出来合いのものを調理し、検食はなく味見確認のうえ提供しています。昼や夕は利用者もカットや盛り付けを手伝い、時には搬入を止めてカレーを一から作ったり、プリンやパウンドケーキ、たこ焼きといったおやつづくりを一緒におこなう日もあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残している。必要に応じて水分量チェックすることもある。また、高カロリー補助食遺品を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の確認は難しいが、毎食後声掛けし実施して頂いている。食前に口腔ケア体操も取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのパターンを把握し、工夫しながら自立への支援をしている。適したパット選択は、おむつフィッター資格を持つ取引業者の方にアドバイスをもらうことが出来る。布パンツからリハパンツへの移行傾向の入居者の自尊心を壊さないように注意している。	独歩でトイレに行く人は11名います。布パンツ6名、リハパンツ5名と維持が叶っていて、家族の経済的負担を軽減させることも外部の専門家の助言(電話で気軽に質問可)を仰ぎつつ話し合っています。便秘対策は其々で牛乳からぬるめのお白湯と多様に対応しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳や白湯等の提供。運動声掛けし散歩に誘う等で対応している。困難時は看護師に相談し医師と連携を取り下剤や浣腸を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入れるよう調整し、季節や皮膚の状態によっては3回入ることもある。可能な限り、ご本人の希望に添うように同性介助にしたり、時間変更している。「菖蒲湯」「ゆず湯」「生姜湯」を取り入れた。	「毎日入りたい」には対応できないものの、状態や希望で週2回を3回に増やす努力はおこなっています。拒否には「ズボン濡れるから脱ごうか」「寒いから」などと理由と提案を繰り返し、また柚子や生姜といったかわり湯で楽しさを加えて、愚痴や昔話に花が咲く日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察し声掛け誘導で休息を促すこともある。個室の為、希望する時間に入床できる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報で確認できるようになっている。変更があれば記録し必ず申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人一人が、散歩に誘い気分転換を図ったり、身体を動かすレク活動をしたり心掛けて取り組んでいる。月1回の合同でのレク活動も継続して実施できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、屋外へは、傍の池周囲の散歩位となった。コロナの状況と法人の取り決めを確認しながら、進めていく予定。	人が乗れるくらい大きな蓮が過去には生息していたことで有名な中新井池は、シラサギも舞い降りてくることがあり、古参の亀に話しかけたり散歩は日課です。なぶら市場やコスモス畑など少し足を延ばせていた頃は遠く、現在は日用品の買い出しも職員のみです。	降りないドライブを数名ずつおこなうなど、何らかの工夫を以て敷地外の様子も感じられる日があるよう期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心感も考慮し、家族の承諾がある方のみ自分で所持している。預り金は希望家族のみ上限を決めて預かり管理している。買い物に行った時の支払いはほぼ職員で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの為、面会制限で会えない状況が続いたので、入居者の状況に合わせ、電話し会話する時間を設けた。3回月1回、お手紙を担当者が書いているが、ご本人に書いてもらうことも実施した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時に摘んできた季節の野花を飾る。季節の装飾を作って飾る。室温に配慮する。窓辺の席で過ごす方は、熱中症にならないよう配慮している。外の景色が見えることで時間の経過を感じ、入居者のほうでカーテンを閉めたりしている。	掃除は夜間に1回、日中2回とし、換気もこまめにおこなうほかアクリル板も導入して、感染症対策と向き合っています。中新井池を中心とする穏やかな自然に囲まれる中、ホールの大きな窓から夕日を眺め、自然の移ろいを語り合うことが日常に溶け込んでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の生活を見ながら、状況に合わせた席の配慮・くつろぐ場所を提供している。廊下に長椅子もあり、静かにくつろげる空間がある。入居者同士の居室を訪問し談笑されることもあり転倒などに繋がらないよう見守りしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初は家族と相談し居室の配置を決めるが、入居後は状態に合わせて、転倒などのリスクを軽減できるよう工夫している。家族の写真や貼っている方もあり、それぞれの想う、「心地よさ」に配慮している。	自室で写経が日課の人、ドーム型遠赤外線をベッド上に置く人もいて、自由な持ち込みと過ごし方が見られます。歩行に難がではじめ、動線確保のために家具の位置を調整したり、ポータブルトイレの設置等、状態に応じて随時検討を図っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーになっている。 ・歩行経路には物を置かないようにしている。 ・トイレの場所が分かりやすいよう、マークを大きくしている個所もある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400091		
法人名	社会福祉法人 大須賀苑		
事業所名	グループホーム野楽里(西の里)		
所在地	静岡県掛川市大淵12680-1		
自己評価作成日	令和2年10月24日	評価結果市町村受理日	令和3年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?act=ion_kouhyou_detail;2020_022_kanji=true&ijyosyoCd=2297400091-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年11月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者とともに食事作りや洗濯干しなど一緒に行い、日常生活の中で役割を持って生活をしていたりしている。
一人一人の生活スタイルを大事にしている。また、様々な場面で自信をもって取り組み、いろいろな方との交流で笑顔が多い生活を送れるよう、言葉かけ等に配慮しながら支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大須賀地区に唯一の福祉法人として住民の信頼も厚く、グループホームの利用者の大半が併設の小規模多機能事業所か法人内のデイサービスに通っていた人の為、家族の身内意識も高く、地域と法人双方に支えられている事業所です。コロナ禍で外出もままならないことから、本年は「レク活動を頑張りましょう」を合言葉に、生姜湯で滋味あるお風呂を堪能したり、子どもの頃おやつ定番だった深し芋で楽しい時間を過ごすことができています。また、本年度から「事業所単位での取組みを～」が法人から奨励され、通信発行や委員会活動が独自におこなわれるようになることで事業所の責任感ややりがいが増えることが期待されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ロッカーに貼り、常時目に入るようにしている。法人として、年度末に次年度へ向けて、理念や倫理綱領を渡している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・所在地区の年間計画をもらっている。 ・地区の方が敷地の草刈り・草取りに来てくださった。 ・コロナの為、交流ホールも活用できなかった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の取り組みで、福祉に関する相談窓口を開設しているが相談はない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開催し現状報告をしている。今年はコロナの対策で施設としての取り組みも報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月1回、委員会を開催、現状を話し合い確認している。スピーチロックを一人一人が気をつけたいという振り返りもできている。意識の向上が図られている。移動職員等にはその都度説明を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今年は研修を実施していない。 ・疑問に思うことは、その都度、報告あり確認している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用して居る入居者はいない。今後、成年後見人が必要な方も出る可能性も考えられる。研修の必要性を感じている。県の社協より、成年後見人制度についてのDVDが届いているので活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者とケアマネで、身元引受人に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として、1年に1回満足度調査をして意見を反映している。(今年度まだ実施していない) また法人のホームページに苦情やご意見を掲載している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3月に面談実施。今年度中に奈1回以上はやる予定である。意見を言える・言えない・言わない人と個人差はあるので拾い上げも必要と思っている。面談体制の整えが必要。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厚生休暇で連続した休暇が取れたり誕生日休暇がありモチベーションに繋がっている。就業時間の定時終了を促進している。想いの行き違いから、職員環境がぎくしゃくする事があり、向上心を育てれない事がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の勉強会・感染症や事故の研修を実施して皆が参加できるように、何回かにに分けて開催している。福祉士などの資格取得を推進している。特養から移動となった職員には説明をすることで違いを理解し仕事に臨んでいる。時間の経過の違いを感じているようである		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	掛川市事業所連絡会に出席し、地域密着型サービスの部会に参加している。今年はコロナの為、現時点では部会開催がない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階でケアマネや管理者が、家族やご本人からの情報収集して伝達している。センター方式の「暮らしぶりシート」を活用し関係づくりに努め、記録に残し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族(介護者)の気持ちに寄り添い、ねぎらいの言葉を掛けたりしている。職員一人一人が心掛けていると感じる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時、現状を聞き取り状況に応じ、他のサービスの利用を勧めることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識している。生活する中で「一緒に」行う中で伝えるだけではなく、教わる姿勢も持っている。職員本位にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期受診は基本家族にお願いし、会う機会を設けている。又、3か月1回担当よりお手紙を書いて送っている。コロナで面会制限もあ為、10月より法人として事業所ごとに毎月、野楽里通信を出すようにした。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で必要な方のみでの面会で、馴染みの人に会う機会はなかった。外出の機会もない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配慮を状況を見て変更している。また、誕生会など余暇活動で交流機会も作っている。利人居者同士の会話も多くある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の関わりは、特別持っていないが、地域の中で家族に会った時、様子を聞くことが出来たケースもある。自宅に戻るケース2ケースあり、ケアマネや今後の施設の紹介をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限り本人の意思を尊重した生活の場を提供している。ずっと居室にこもらないよう適宜、声掛けも意識している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「暮らしぶりシート」を活用し生活歴や現状を把握するよう努めている。中途採用や移動した職員の中には、さかのぼって共有しようとする意識を持っている職員もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や「暮らしぶりシート」の見直し、申し送りで情報共有し把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6か月に1回モニタリングを行っている。更新時期や状態変化ある時、担当者会議を行っていて、最善のケアができるようアセスメントしている。担当職員にやってもらい、サービス計画者がまとめている。話し合いの場が少ないという意見もある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	共有できている。新規利用の方は特に詳しく記録する努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅希望の入居者がいたので話し合いを何度かもち、在宅に行っても困らないようにケアマネを紹介をした。10月家族の希望で往診取入れをした		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傍にある「中新井池」の散歩、地域の床屋の活用。コロナの為、ドライブなど自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人のかかりつけ医を継続し利用している。状況変化ある時は同行したり、書面で報告している。看取りになった時の往診についても、全員ではないが、了解を取れた医師もある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師なので、適宜状態報告し指示をもらうことが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提要やサマリーを活用し共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になりうるであろうと予測する時は、早期に担当者会議を開き、家族の要望・施設でできる事を伝え今後の流れを決めている。今年1月～2月に施設として初めて看取り介護を実施させて頂いた。今後も研修を開催し向上していきたい。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	自らマニュアルに目を通して学ぼうとする職員もいる。しかし、不安を感じる職員もあるので、実技講習を実施する必要性はあると思っている。最低年1回は勉強する機会を設けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・法人の災害マニュアルはある。 ・備蓄の整備が遅れている。 ・避難訓練に全員が参加できていないので、参加できていない職員も参加できる体制作りが必要である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や誇りを考慮し声掛けの仕方に配慮している。申し送り時、入居者に聞こえないように配慮している。慣れあいになることもあるが、丁寧な言葉遣いの職員につられることもあり、気づきになっている。丁寧すぎると通じない時もあり工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように2者選択を行ったり、言葉で表現できるように、声掛けの工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限られた人数での支援ではあるが、一人ひとりの職員が、なるべく希望に沿うように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの配慮が出来ていて、洋服の汚れがあったら着替えている。また、言葉がけて意識を持ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の出来る事・出来ない事を見極め、職員間で共有を図り実践している。自分の仕事として進んでやる入居者もいるので、その想いを大事にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録に残している。必要に応じて水分量チェックすることもある。また、高カロリー補助食遺品を提供することもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方の確認は難しいが、毎食後声掛けし実施して頂いている。食前に口腔ケア体操も取り入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれのパターンを把握し、工夫しながら自立への支援をしている。適したパット選択は、おむつフッター資格を持つ取引業者の方にアドバイスをもらうことが出来る。布パンツからリハパンツへの移行傾向の入居者の自尊心を壊さないように注意している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時、牛乳や白湯等の提供。運動声掛けし散歩に誘う等で対応している。困難時は看護師に相談し医師と連携を取り下剤や浣腸を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回は入れるよう調整し、季節や皮膚の状態によっては3回入ることもある。可能な限り、ご本人の希望に添うように同性介助にしたり、時間変更している。「菖蒲湯」「ゆず湯」「生姜湯」を取り入れた。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子観察し声掛け誘導で休息を促すこともある。個室の為、希望する時間に入床できる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報で確認できるようになっている。変更があれば記録し必ず申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員一人一人が、散歩に誘い気分転換を図ったり、身体を動かすレク活動をしたり心掛けて取り組んでいる。月1回の合同でのレク活動も継続して実施できている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、屋外へは、傍の池周囲の散歩位となった。コロナの状況と法人の取り決めを確認しながら、進めていく予定。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の安心感も考慮し、家族の承諾がある方のみ自分で所持している。預り金は希望家族のみ上限を決めて預かり管理している。買い物に行った時の支払いはほぼ職員で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの為、面会制限で会えない状況が続いたので、入居者の状況に合わせ、電話し会話する時間を設けた。3回月1回、お手紙を担当者が書いているが、ご本人に書いてもらうことも実施した。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩時に摘んできた季節の野花を飾る。それぞれの職員が考えて、季節の装飾作りを提供し飾る。室温に配慮する。窓辺の席で過ごす方は、熱中症にならないよう配慮している。外の景色が見えることで時間の経過を感じ、入居者のほうでカーテンを閉めたりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の生活を見ながら、状況に合わせた席の配慮・くつろぐ場所を提供している。廊下に長椅子もあり、静かにくつろげる空間がある。入居者同士の居室を訪問し談笑されることもあり転倒などに繋がらないよう見守りしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居当初は家族と相談し居室の配置を決めるが、入居後は状態に合わせて、転倒などのリスクを軽減できるよう工夫している。家族の写真を貼っている方もあり、それぞれの想う、「心地よさ」に配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・バリアフリーになっている。 ・歩行経路には物を置かないようにしている。 ・トイレの場所が分かりやすいよう、マークを大きくしている個所もある。		